

大学図書館問題研究会 京都

〒607 京都市山科区大宅山田町34 京都橘女子大学図書館 小林倫道気付
(Tel) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

いざ、北海道へ!!

大学図書館問題研究会第28回全国大会
1996年8月24日(土)～26日(月)

会場「かでの2. 7」札幌市中央区北2条西7-1 道民活動センタービル
011-231-4111 (内線36-108)

《プログラム》

8/24(土) 午後 全体会(1時～。受付12時～)

夜間 懇親会 自主企画

8/25(日) 午前(課題別分科会1) 午後(課題別分科会2)

(1) 大学図書館史	(a) CD-ROM
(2) 資料収集と蔵書構成	(b) 大学図書館とインターネット
(3) マルチメディアと著作権	(c) 土・日・夜間開館
(4) 資料組織と主題アクセス	
(5) 専門職制度	
(6) 利用者サービス	

夜間 自主企画

8/26(月) 午前(主題別分科会)

(1) 人文系	(2) 社会系	(3) 理工系	(4) 生物・医学系
(5) 教育系	(6) CD-ROM Update	セミナー	

正午 記念撮影 解散

いよいよ全国大会の季節です。今年の開催地は、こんな機会でもないと中々行けない北海道。千載一遇のチャンス到来。年に一度の再会や、札幌の「赤い灯青い灯」も楽しみです。申込方法は全国版をご覧ください。

新刊紹介

「大学図書館図書資料論」

神立春樹著

(御茶の水書房 1995)

堤 美智子

インターネットや情報検索などのテーマが脚光をあびている現代に “図書資料論” とはちょっと古めかしいと思いつつ、気になって購入し、読んでみました。著者は書名からは、意外ですが岡山大学教授で、専門は農村経済学、“まえがき”によれば、一大学教員と大学図書館・図書資料との関わりを記したものであるということです。

内容構成は第1章 アメリカ大学図書館活動の一観察—アメリカ大学図書館訪問記—、第2章 アメリカ公共図書館の印象、第3章 アメリカ大学図書館におけるライブラリアン—ライブラリアンに関する研究に学ぶ、第4章 岡山大学附属図書館における収書の在り方、第5章 岡山大学所蔵近世地方史料について、第6章 岡山大学所蔵大原農書文庫について、第7章 近代地域史研究史料としての府県統計書—大学図書館備え付けの意義—、第8章 農林業センサス原資料の収蔵というものです。この目次からも分かるように著者は自身の研究のためにアメリカに滞在した機会をとらえて、アメリカの大学図書館、公共図書館を訪問しています。第1章から第3章まで、全体のかんりの分量を占めているところから、著者の図書館に対する関心の深さをしめしていると思われまます。著者は大学図書館において、最も重要な機能の一つ、優れた収書をするために欠かせない要素は専門職ライブラリアンであり、専門職として、ファカルティ・ステイタスを与えられなければならないという論法です。この面では、なんととっても先行国のアメリカを見た結果納得するところがあつたようです。

ページ数でいうと丁度後半半分が岡山大学附属図書館と著者の関わりと収書の在り方、更に、岡山地方と著者の研究分野に関わる近世史料の収集、整理、岡山大学所蔵の大原農書文庫について、農業センサス資料について、などが論じられています。この後半は、研究者として岡山大学附属図書館の研究機能について、研究者らしく、個々の資料の内容をも紹介しています。

実のところ、支部委員会で京都支部での研究集会について話し合っているうち、このあたりでテーマを収書で開催してはという提案があるのですが、国立大の支部委員会メンバーは、私もですが、どうしても関心がもてません。それは、やはり収書権が図書館員にない、ということに原因があります。この本に論じられているように蔵書構成にも権利と責任をもてる専門職として、ライブラリアン・シップを確立していかなければならないと思います。

最初にこの本のタイトルを目にした時の意外な思いから始まって、この様なタイトルの本を図書館員ではなく、農村経済学の専門家に書かれてしまったという読後感をもつてしまいました。

(つつみ・みちこ／都大学総合人間学部図書館)

新連載 (4回シリーズ)

パソコン通信 入門講座

第1回 「パソコン通信のススメ」

小林 倫道

巷間まさにインターネットが花盛り。おじさんたちも子供に負けじとパソコンいじりに精を出さねば時代の流れについていけないご時勢であります。

わが図書館界においても「情報リテラシー」を身につけないと世間からとり残される、と言われて久しいのですが、実際はどうでしょう。図書館にコンピュータは入ったけど特定の業務で使うだけ。自分はメンテナンスしていないので立ち入ったことはよくわからない。家にワープロぐらいはあるけど、使い方が「清書用のプリント機械」ではとても「情報化だっ！」などとは威張れません。

お上主導の情報化も大事ですが、真の情報化は家庭から（「国際化」だってそうでしょう？）。別に「パソコンが使えなければ人にあらず」とは言いません。私だって本当はパソコンいじりより青い海や緑の山の方が、ずうっと大好きです。でも身近な興味として、例えば大図研の会員間での交流や情報流通を、まして図書館が「情報屋」の端くれなら、もっとそれらしくパチッと決める方法はないんでしょうか？。

そこで本シリーズの始まりです。私自身、パソコンに関しては初心者に毛が生えた程度ですから、「これからはパソコンをやらなくてはいけないと思っているけど、きっかけがない」「欲しいけど使い道がはっきりしない」といった超初心者がターゲットです。でもちょっとだけ、大図研に対する警鐘も鳴らしてみたいなあ。

ということで、本講座のシラバス紹介です。

パソコン通信入門講座 (シラバス)

第1回 パソコン通信のススメ

第2回 何が必要か・ハード編

第3回 何が必要か・ソフト編

第4回 パソコン通信の楽しみ方 (お楽しみプレゼントつき)

楽しみですねえ。続いて、興奮さめやらぬうちに第1回の標語。

● **パソコンは「通信」をやるために買いえ！**

「パソコン買って、元を取れるだけ使う自信がない」と二の足を踏んでいるあなた。悪いことは言いません。通信をやるためにパソコンを買いなさい。ついでにワープロ、データベース、表計算、ゲーム等が付いてくると思えば元は取れます。

「超・法」などという情報整理本がたくさん出ていますが、私の考えもそれらと大筋は同じです。つまり、パソコンが得意な分野はパソコンの力をじゃんじゃん活用しましょう。パソコンの得意分野といえは？。まず、①編集、印刷、保存を含めた文書処理機能。次に、②表計算・データベース機能。これは文書処理の発展型とも言えます。そして③通信機能です。

パソコンでやる「通信」の中に広くはインターネットも含まれますが、この講座では狭い意味での「パソコン通信」に限定します。両者の大きな違いは、インターネットは音声・動画も含めたマルチメディア通信であるのに対し、パソコン通信はテキスト・データ（文字情報）が基本です。またインターネットのような世界的広がりも前提にはしていません。しかし、閉じた世界である分メンテナンスが行き届いていて、安心して情報が入手できるメリットもあります。またインターネットと相互乗り入れできる拡張性もあります。ゆくゆくはインターネットに包括されると思いますが、融合しながらも固有の役割を担うセクションとして存続するはずで

この講座で取り上げた理由は、①一般家庭では現段階ではインターネットより快適につながる、②インターネットより費用がかからない、③それでいて情報流通には十分威力を発揮する、④インターネットを始める前の「練習」にもなる、おまけに⑤インターネットに乗り換える道まで開かれている、です。どう？文句ある？。

で、具体的には何が出来るか。例えば電子メール。これは「パソ通」の原点でもあり、なかなかあなどれません。「そんなん、電話で済むやんか」というなかれ。最初に言ったでしょ？。コンピュータには得意なことだけやらせばいいと。そりゃあ、電話の方が手取り早いのが普通です。でもメールならこんなこともできます。①相手が不在でも送っておけばそのうち読んでくれる。②同時に複数の人に送信することができる（ここまではFAXでも代用できます）。③受け取った文書をワープロ等に取り込んで加工することが出来る。④文書だけでなくプログラム等のファイルも送れる。⑤こっちにFAXがなくても相手のFAXに出力することが出来る（家にプリンタを持ってない奴が職場のFAXにプリントを出す、なんてのはセコい裏ワザです）。⑥初対面の人に出すときにも不思議と抵抗がない（こんなところにも「メディアの変化が世界中で色んな壁を無くしているんだ」と実感します）。メールを出す相手がいない？。大図研で見つけましょう。万一見つからなくても、楽しみはなんぼでもあります。

次に、電子メールから発展したようなシステム、電子会議（掲示板、フォーラムなど原理は同じ）があります。これはホスト（パソコン通信会社の大型コンピュータ）の中にある会議室（掲示板）に、電子メールを送る要領で色んな人がコメントを送り、情報交換するシステムです。同好の志が集まったフォーラムから得られる情報には、実践的であるがゆえに、誠に得難いものがあります。

それからお馴染み、データベース検索機能。パソ通会社が各種オンライン商用データベースをサポートしてくれていて、高価な各社データベースと一々契約していなくても自分が加入しているパソ通ネット経由で入ることができます。レファレンス・カウンターでサービスしている各種データベースを、研修もかねてつまみ食いするには最適です。

ほら、「情報屋さん」が必要とする情報社会のエッセンスがしっかり含まれているじゃないですか。趣味と実益をかねたパソ通には、面白いことがまだまだあります。何より「遊び心」でコンピュータに接して下さい。あんなもん、無理やりやらされて覚えるものではありません。これが本講座のモットーです。コンピュータがうまく使えるかどうかは、あなたがどれだけ「遊びたいか」に比例します。

さあ、明日あなたもパソコンショップに走ろう。やっ、それはいいとして、買うのはちょっと待て。もしあなたが「イラチ」でなければ次回の「第2回・ハード編」を読んでか

ら。ボーナスはちゃんと貯金しといてね……「ボーナスセール」にだまされるな。それに今年7月は国産大手のモデルチェンジ期。新製品をチェックしてからでも遅くない。

本講座に関するご意見は NIFTY-Serve:PXX01651まで。(ˆoˆ)Y

(こぼやし・ともみち/京都橋女子大学図書館)

目次	いざ、北海道へ(全国大会案内)…… 1頁 「大学図書館資料論」(堤美智子)…… 2頁 パソコン通信入門講座①(小林倫道)… 3頁 大図研京都数珠つなぎ(第6回)…… 6頁
支部報に関するご意見は、最寄の支部委員または編集気付(京都橋女子大学図書館 ☎075-574-4118 <FAX・4124> NIFTY-Serve:PXX01651小林)まで。	

……(厚前ページより)……

す。しかし現実的に見ると、もう後戻りはできません。

95年度は学部改組・大学院改組に伴って図書費が飛躍的に増大したうえ、寄贈による文庫本もあり、少なく見積もっても増加冊数は平年のおよそ1.5倍はありました。既にもう新年度の図書が到着していますが、前年度分の整理の終わりさえ見えないのが現状でこのカードレス化がなければ、滞貨にうずもれ悲惨な状態であったことは間違いありません。今後も図書の増加がこのまま継続すれば、さらに別の仕事の見直しさえ必要になりそうです。

今回は京都大学を離れて、京都工芸繊維大学へ。京都大学文学部時代に事務系から転身された松島さんです。ではよろしく。

「数珠つなぎ」のルール

- ①内容は硬軟自由。②原稿量も1ページ程度以上で自由。③執筆者には次回執筆者を指名する義務があります。④指名された人はもちろん拒否権なし。

●—●—●●●—●●—●—●●●—●—●●●—●●●—●—●●—●—●●●—●

| 衝撃の新コーナー!!

● 大図研京都教珠つなぎ 第6回 京都大学文学部整理掛 ^{ひらかわがすこ} 平川和子 さん ●

●—●●●—●●—●—●●—●—●●●—●●●—●—●—●●●—●●—●—●●

このコーナーへの寄稿をOKして数日後、編集部の小林さんから電話を頂きました。”電子メールの番号は?”電子メールの番号はNCからやっともらったばかりで、うろ覚えです。それだけでオタオタしているのに、追って送られてきた電子メールの内容はチンプンカンプン。．．世間との落差とでもいうものを、しみじみと味わいました。

私は平川と名のつていますが、これは旧姓つまり通称で戸籍名は森田です。森田と名のるのが気が進まないのは、森田と言う名がありふれていて気に入らないのと、なんで私だけが変わらなければならないの、という思いがあるからで、特に旧姓に固執しているわけではありません。

とは言いながら”旧姓を名乗る会”会長もやっています。これは私が勝手に作った会で正式の会員もおらず、従ってこれといった活動もしていません。それでも一応昔は自己紹介のときに、必ずこれこれと説明してささやかな要望をしていました。効果は人によりけりで、けっこう意外な人から意外な反応がありました。中には説明不足のためか、どちらが旧姓なのか混乱を来してしまった方もおられました。旧姓では職員名簿に載っていないため、連絡できずに困った方も。

もともと是が非でも旧姓で呼んでと頑張る根性はないので、改姓以来20年になるとあたりまえなのでしょうが、森田の方が通りがよくなってしまっています。旧姓で手紙のやり取りしている相手(こういう人は旧姓で頑張ってるね、と言う感じ)にもつい、自ら森田と署名したりして、．．異動などで新しい出会いがあるたびに説明するのもだんだん面倒になってしまい、とりあえず呼んでくれそうな人にだけお願いしている始末です。

ところで私は4年前から再び、洋書目録(図書雑誌とも)を担当しています。うち図書については1987年度受入れ分から段階的にNCに書誌・所蔵とも入力し、1992年度受入れ分からは、全点入力するに至っています。特殊言語の資料がかなりあり、目録を取ること自体けっこうしんどいものがあるのですが、端末入力と並行して従来どおりのカードによる目録も維持してきました。これはオーバーに言えば、仕事量が二倍になったようなもので、滞貨が増すばかり。おまけにご多聞にもれず、定員削減の影響がここにも及び、1人減となりました。

そこで、閲覧室にTSS-OPAC検索用の端末を備え付けるのを待って、ついに1995年度受入れ分からカードレスに踏み切りました。他学部では、性急なカードレスはすべきでないと言う方針をだされ、あるいは絶対にカードレスは反対だと表明される先生もおられるということで、カードを維持しておられるという事実があること;また文学部内でも、閲覧室からはTSS-OPACによる検索がうまく機能していないという苦情を聞き、利用者たる先生方は導入後まだ1年なので、(どんな本があるか分かっているため)TSS-OPACで検索する必要に迫られてない状態だということを知るにつけ、早まったかなと心が揺れ、将来不都合が生じなければいいかと心配しているのが正直なところで

(冒前ページへ)